

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】 第 7 部門第 2 区分  
【発行日】 令和 4 年 11 月 15 日 (2022.11.15)

【公開番号】 特開 2021-86929 (P2021-86929A)  
【公開日】 令和 3 年 6 月 3 日 (2021.6.3)  
【年通号数】 公開・登録公報 2021-025  
【出願番号】 特願 2019-215065 (P2019-215065)  
【国際特許分類】

H 0 1 L 33/60 (2010.01)

10

G 0 3 B 21/00 (2006.01)

G 0 3 B 21/14 (2006.01)

H 0 1 L 33/00 (2010.01)

H 0 1 L 33/46 (2010.01)

H 0 1 L 33/64 (2010.01)

F 2 1 S 2/00 (2016.01)

F 2 1 V 7/00 (2006.01)

F 2 1 V 7/04 (2006.01)

F 2 1 V 29/505 (2015.01)

F 2 1 V 29/70 (2015.01)

20

F 2 1 Y 115/10 (2016.01)

F 2 1 Y 113/10 (2016.01)

【F I】

H 0 1 L 33/60

G 0 3 B 21/00 D

G 0 3 B 21/14 A

H 0 1 L 33/00 L

H 0 1 L 33/46

H 0 1 L 33/64

F 2 1 S 2/00 3 1 1

30

F 2 1 V 7/00 5 1 0

F 2 1 V 7/04 3 0 0

F 2 1 V 29/505

F 2 1 V 29/70

F 2 1 Y 115:10

F 2 1 Y 113:10

【手続補正書】

【提出日】 令和 4 年 11 月 7 日 (2022.11.7)

【手続補正 1】

40

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 6 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 6 5】

上述した発光装置 1 0 0 では、図 1 に示すように、柱状部 4 は、第 1 半導体層 4 3、発光層 4 4、および第 2 半導体層 4 5 で構成されていた。これに対し、発光装置 1 1 0 では、図 4 に示すように、柱状部 4 は、第 1 半導体層 4 3 のみで構成されている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】 明細書

50

【補正対象項目名】 0066

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0066】

発光装置 110 では、発光素子 40 は、コアシェル構造を有している。発光層 44 は、第 1 半導体層 43 の側面 43a および上面 43b に設けられている。第 1 半導体層 43 の側面 43a は、m 面である。第 1 半導体層 43 の上面 43b は、例えば、c 面である。図示の例では、発光層 44 は、マスク層 42 に接している。第 2 半導体層 45 は、発光層 44 を覆うように設けられている。図示の例では、第 2 半導体層 45 は、マスク層 42 に接している。

10

【手続補正 3】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0068

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0068】

発光装置 110 では、発光素子 40 は、コアシェル構造を有しているため、発光素子 40 は、側面 43a の垂線方向（図 1 に示す垂線 Q 方向と直交する方向）に多くの光を出射することができる。これにより、ミラー 60 で反射される光の量を多くすることができる。

20

【手続補正 4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0069

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0069】

発光装置 110 では、複数の柱状部 4 の最短のピッチは、例えば、発光層 44 が発生する光の波長よりも大きい。そのため、発光素子 40 は、フォトリソグラフィ効果が発現することなく、側面 43a の垂線方向に多くの光を出射することができる。

30

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0072

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0072】

上述した発光装置 100 では、図 1 に示すように、基体 10 と第 1 半導体層 43 との間の距離は、基体 10 と第 2 半導体層 45 との間の距離よりも小さかった。これに対し、発光装置 200 では、図 5 に示すように、基体 210 と第 2 半導体層 45 との間の距離は、基体 210 と第 1 半導体層 43 との間の距離よりも小さい。

40

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0112

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0112】

上述したプロジェクター 400 では、図 9 に示すように、光源として、発光装置 100 を有していた。これに対し、プロジェクター 500 では、光源として、発光装置 200 を有している。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】 明細書

50

【補正対象項目名】 0 1 1 3

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 1 1 3 】

プロジェクター 5 0 0 は、図 1 0 に示すように、赤色光を出射する赤色光源 2 0 0 R と、緑色光を出射する緑色光源 2 0 0 G と、青色光を出射する青色光源 2 0 0 B と、を有して  
いる。光源 2 0 0 R，2 0 0 G，2 0 0 B は、画素を形成することができる自発光イメージャーである、そのため、プロジェクター 5 0 0 は、別途、光変調素子を有していない。  
これにより、小型化を図ることができる。

10

20

30

40

50